

磨き合おう 教師力 こどもたちの笑顔のために



こどもたちの明るい未来のために

江東区立幼稚園教育研究会 会長 安田 徳章

今年度は、「これからの時代をたくましく生きる江東のこどもたち～質の高い幼児教育とは～」を研究主題に研究を進めて2年目になりました。この間、私たちを取り巻く状況は大きく変化し、時を同じくして、国から幼児教育に関連した報告書等がいくつも出されるなど、質の高い幼児教育を継続していくことの重要性が様々な形で示されました。そのひとつには、公立幼稚園が、幼稚園教育要領を着実に実践し、その専門的知見やノウハウを他の幼児教育施設に提供したり小学校以降の教育との円滑な接続を図ったりし、タテとヨコをつなぐ結節点となるなど、地域の幼児教育の質向上において重要な役割を果たしてきたことが示されています。

本研究会は、三つの部会に分かれての研究の他、保育に生かせる実技研修会、多様なテーマを設定して講師から学ぶ講演会も実施しています。これらの研修を通して得た学びを保育の充実につなげるとともに、江東区小学校教育研究会との連携を密にして、研究授業・研究保育を見合うなどしながら学びを深めています。

江東区教育委員会の策定した「教育推進プラン・江東（第2期）」には、教育理念として、こどもたちが主体的に、そして、友達と「ともに」学び、「ともに」育つこと。大人たちが、こどもたちのために「ともに」考え、「ともに」支えていくことを大切にすると示されています。まさに、本研究会の実践がその理念の実現に向けた取組であると考えます。これからも、江東のこどもたちの明るい未来のために、こどもたちを取り巻く私たち大人も、明るい笑顔と未来に向かって歩み続ける強い気持ちをしっかりと寄せ合っていきたいと思えます。



「たいせつなものが ここにはある」

江東区教育委員会 教育長 本多 健一郎

今年度も、マイエプロンを持って幼稚園を訪問しました。先生方の保育の邪魔にならず、少しでもこどもたちの遊びや学びの支援ができればと思っていますが、ただ単に私が楽しんで終わっているだけかもしれません。でも、「また、きてね!」と言ってくれる優しいこどもたちの言葉を聞くと、ホッとします。

「これからの時代をたくましく生きる江東のこどもたち」の育成は、予測困難な時代を主体的に生きていくことが求められている現代において重要なことであり、各部会の研究実践は、質の高い幼児教育の証であります。

しかし、江東区立幼稚園でその質の高い幼児教育を受けて1年生になる子の割合は、1割にもなりません。そこで、江東区立幼稚園に期待されるのは、江東区全体の幼児教育のセンター的な役割を果たしていくことです。既に、近隣の保育園を園内研究に誘ったり、連携して保育をしたりする等、積極的に取り組んでいただいています。研究成果のさらなる発信、江東区すべての幼稚園・保育園での共有、活用が期待されます。

ロバート・フルガムの著書『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』ではありませんが、江東区立幼稚園を修了した方々のお話を伺うと、幼稚園での経験が生き方に影響を与えていると言ってもよいのではないかと感じています。「たいせつなものがここにはある」のです。江東区立幼稚園の応援団長として、園内に笑顔の花が咲き誇るよう、私も頑張ります！

《 研究主題 》

「これからの時代をたくましく生きる江東のこどもたち ～質の高い幼児教育とは～」

予測が困難で変化の激しい現代においては、幼児に「持続可能な社会の創り手となる力の基礎を育むこと」の必要性が国の重要施策や政府の方針として示されています。

江東区立幼稚園教育研究会は、幼稚園教育要領や本区の教育施策を踏まえ、「これからの時代をたくましく生きる江東のこどもたち～質の高い幼児教育とは～」を研究主題とし、今年度研究2年目となりました。

研究主題 について

各部会では、教師一人一人が自らの保育の質の向上を目指し、月に1度、日々の実践を振り返る協議を行い、学びを深め共有しています。また、江東区小学校教育研究会とも連携し、研究授業や講演会に参加しています。小学校の先生方と共に協議会に参加する中で小学校の教育について学び、自らの保育を見つめ直したり、幼稚園教育の発信に努めたりしています。今後も、たくましく生きる江東のこどもたちを育めるよう研究を進めてまいります。

各部研究活動報告

第1部会

部長 貞方 功太郎

推進部長 彦坂 恵美

研究 主題

「夢中になって遊ぶ幼児を育む」



3年間の研究の2年目も終盤に差し掛かっています。

部員18名と、最も人数が少ない第1部会ですが、活発に意見を交わし、意欲的に研究を進めています。

昨年度は、発達段階（各学年）ごとに「夢中とは」ということについて探ることが主でしたが、今年度は一歩進めて、「夢中を引き出す援助や環境の構成」について追究してきました。少しずつ、ポイントとなる事柄が見えてきたところです。今後、それらを整理し、実践で検証していきながら、研究のまとめにつなげていきたいと考えています。

また、今年度も引き続き、江東区小学校教育研究会の生活・総合部と合同で部会を2回開催することができました。互いに、実際の授業・保育を見て、協議ができることは、大きな学びの機会となっています。研究主題に沿った学びを得ることもさることながら、こうした取組を、幼児期の教育から小学校教育への滑らかで確かな接続につなげていきたいと思えます。

2月には、聖心女子大学 教授 河邊貴子先生をお招きして、講演会を行います。これまで部会で見いだしてきた事柄や、考え方等についてご指導いただき、研究の内容を更に充実させてまいります。

第2部会

部長 松岡 克恵

推進部長 野崎 直子

研究 主題

「幼児の“やってみたい” “もっとやりたい”を引き出す環境の工夫」 ～主体的に環境に関わり、 遊び込む幼児を育むために～

本部会では昨年1年間の研究を通して、幼児が主体的に関わり、遊び込むための環境のポイントとして、3歳児は「教師を中心に、安全で幼児が自分から動きやすい環境」であること、4歳児は「幼児が分かりやすく、扱いやすい用具や遊具等がある環境」5歳児は「幼児同士が刺激を受け合いながら、達成感を味わえるように、繰り返し考えたり試したりできる環境」が大切であることが分かりました。

それらを踏まえ、今年度の部会では学年ごとにテーマ（活動）を決めて、幼児に経験してほしい内容や教師の願いについて話し合い、各自が自園にて実践しています。翌月の部会では、工夫した環境の写真やエピソード記録を持ち寄り、幼児の「やってみたい」「もっとやりたい」を引き出す環境の構成や援助について語り合い、研究を深めています。

10・11月には、昨年度に引き続き江東区小学校教育研究会 図工部会の研究授業に参加しました。今年度は、図工部会の研究授業の方法を参考にして、学年ごとに全部員で指導案を作成し、3歳児の研究保育を行う予定です。また、1月には国立音楽大学附属幼稚園 主任 北野玄二先生をお招きして講演会を行いました。北野先生の実践を伺い「環境による教育の意味」について更に学びを深めることができました。



第3部会

部長 木村 美佐子

推進部長 夏井 史子

研究 主題

「一人一人の心に寄り添った援助について考える」 ～安心して自分を出し、 ともに育ち合う幼児を目指して～

私たち幼稚園教諭は、日々、幼児一人一人に寄り添いながら、幼児が安心して自分を出し、伸び伸びと主体的に遊びや生活に取り組むことができるよう、支えていきたいと考えています。

第3部会では、昨年度の研究の中で分かったことを年齢別の表にまとめたり、「寄り添いシート」を開発する中で、シートに工夫や改善を加えたりしてきました。

また、写真を用いて事例検討したり、ロールプレイ形式で、幼児役や教師役に分かれて、相手の立場に立ったりしながら、一人一人への様々な寄り添い方を学んでいます。

12月には、西新井こころのクリニック 臨床心理士 橋本弘美先生をお招きして、研究保育と講演会を行い、心理学の観点から、幼児の心の動きを読み取る大切さを教わりました。さらに1月には、江東区小学校教育研究会 学級経営・児童文化部会にも参加させていただき、小学校の先生方の児童への寄り添い方について、勉強しました。

これからも引き続き、幼児の心の動きを読み取り、今後の育ちを見通して、どのような援助が必要なのかを探っていきたいと考えています。



深川地区 7月10日(水) 平久幼稚園

◎研究主題

夢中になって遊ぶ幼児を育む ～運動遊びを通して～

本園では、運動遊びを視点を夢中になって遊ぶ幼児を育むための環境の構成や援助について探り、研究を進めています。

協議会では、各園、運動遊びの写真を持ち寄り、幼児が夢中になれた要因や教師の援助、教材や環境の工夫について話し合いました。

講師として、有明教育芸術短期大学 准教授 信太朋子先生をお迎えし、夢中になって遊ぶ幼児を育むためには、幼児の楽しい！面白い！という「わくわく」を引き出し、主体性を高める援助が大事であるご指導いただきました。幼児の興味や関心を丁寧に捉え、「わくわく」遊び込めるような魅力ある環境作りや学年の枠にとらわれず、様々な人との関わりの中で、遊びの経験を豊かにできる援助の工夫が大切だと学びました。



臨海地区 7月1日(月) 枝川幼稚園

◎研究主題

遊びを通して、異学年の幼児が人との関わりを楽しむための援助や環境の構成の工夫

本園では、好きな遊びを通じた異学年の幼児の関わりに視点をあて、援助や環境の構成の工夫を探っています。

協議会では、人との関わりにおいて大切にしたいことや環境等について写真を基に話し合いました。教師が見通しをもった上で、今の時期に必要な経験の保障や、他園の幼児と関わる機会を増やす工夫をすること等がポイントとしてあがりました。

講演会では、武蔵野大学教授 箕輪潤子先生をお招きし、人との関わりの重要性や、個と共同性が育つプロセス、異学年との交流の意義についてご講演いただきました。幼児期における多様な人との関わりが、多様な人間関係の土台となることや空間・場、物、動き、言葉等、様々な視点で人との関わりを捉える大切さを学びました。



亀大地区 7月10日(水) 大島幼稚園

◎研究主題

幼児の実態や育ちを適切に捉え、自分らしさが 出せるような質の高い保育を目指して

本園では、幼児一人一人の実態や育ちを適切に捉えた指導計画の立案及び自分らしさが出せるような保育の実現に向けて、研究を進めています。

協議会では、本園の保育及び幼児の現状と課題を視点とし、各園の実践や課題を持ち寄り、情報交換をしました。その中で、異なる文化や家庭環境、育ち等における現状に対しては、個と学級の実態を丁寧に捉え、実態に合ったねらいの設定や活動方法を工夫することの重要性を再確認しました。

講演会では、白金幼稚園 園長 仙田晃先生を講師にお迎えし、教師が幼児一人一人の自分らしさを見取ることや、幼児同士が遊びを通して自然とつながる過程を見守る意識をもつことの大切さをご指導いただきました。また幼児の言動やその子の目線になって幼児理解を深めることで、実態を適切に捉え、援助や環境の構成を考える大切さを改めて学びました。



砂町地区 9月18日(水) なでしこ幼稚園

◎研究主題

ひとみかがやくなでしこキッズ ～“やりたい”がいっぱいの園庭環境～

本園では、「園庭が豊かな学びの場となるように」という願いをもって研究を進めています。

公開保育では、年中・年長組は、なでしこの森でハーバリウム作り、洋服にくつつく種との出会い、年少組は園庭で草花やドングリを使って遊ぶ姿等を参観していただきました。

協議会では、安心感が土台となっていることや森での経験を幼稚園で活かす工夫等について話し合いました。

講演会では東京家政大学家政学部造形表現学科 教授 岡田京子先生より、幼児期は手で触る、体で感じる、材料と関わる体験をたくさんできるようにすることが大切である等のお話を伺いました。幼児は同じ体験をしても表現は様々であることを教師が理解し、一人一人が感じたこと、表現したいことを十分に受け止めていくことの大切さを学びました。



講演会報告

令和6年4月24日(水) 場所：江東区教育センター

テーマ 「これからの時代をたくましく生きる力を育む

～持続可能な社会の創り手たちに求められる資質・能力とは～

講師 東京大学大学院教育学研究科 教授 北村 友人 先生



はじめに、持続可能な開発という概念についてお話しいただきました。

持続可能な社会とは、誰もが暮らしやすく、誰もが参加でき、互いの違いを理解し認め合う共生社会であり、問題を他人ごとではなく自分ごととして考え、話し合いの中で合意することができる力が重要であると教えていただきました。また、「遊び」こそが学びの原点であり、「自分で見つけた！自分で分かった！自分の力でやった！」という経験を重ねられるように援助することが、生涯を通した柔軟な「学び方を学ぶ」ことになることを教えていただきました。

最後に北村先生から「考え方を変えていく必要がある」ということを伝えたかったとお話があり、今までにないやり方を考える時代が来ていることを改めて実感しました。

実技研修会報告

令和6年6月26日(水) 場所：江東区教育センター

テーマ 「じゃぶじゃぶ！ぶかぶか！楽しいプール遊び・水遊び

～水に親しみをもち、安心して楽しめる活動を展開するために～

講師 総合体育研究所 運動遊びコンサルタント 山田 秀一 先生



「プール遊び・水遊び」について、講師の山田先生に水遊びの基本的な考え方や、普段の保育でも楽しめる遊び、プール遊びでの安全管理の方法などを教えていただきました。

「プール遊びは特別なものではなく、普段の保育の延長線上にある」というお話とともに様々な遊びを実際に動きながら教えていただく中で、日々の遊びがプール指導につながっていることを強く実感しました。また、実際の指導の流れを体験することで教師自身も活動の楽しさを実感し、幼児が楽しさを感じるポイントや、水中で行う場合の配慮点を学ぶことができました。

幼児一人一人が安心して水遊びを楽しめるように、普段の保育から、幼児が「幼児期に習得しておく」と望まないとされる36の基本動作」を獲得できる活動を取り入れ、指導方法を工夫していきたいと思えます。

講演会報告

令和6年8月26日(月) 場所：江東区教育センター

テーマ 「『食』を通して育つもの・育てたいもの」

講師 相模女子大学栄養科学部健康栄養学科 特任教授 堤 ちはる 先生



幼児期の食育の必要性や保護者への「食」の支援についてご講演いただきました。

「食」は知育、徳育及び体育の基礎となるものであり、健全な食生活を送ることができる人を育てることが大切であると教えていただきました。幼児の「食」への興味・関心を高め、食事を楽しむことができるようにするためには、幼児が規則正しい生活リズムを送れるようにすること、また、身近にいる大人（保護者や保育者）が「食」に関心をもつことが重要であることを学びました。

幼稚園での食育の進め方に加えて、家庭での食育についても学ぶことができ、改めて「食」について考える機会となりました。今後は、食育に関する活動内容を改めて見直したり、保護者との連携に生かしたりしていきたいと思えます。

お弁当給食が始まりました！

令和6年6月からお弁当給食が始まりました！

区立幼稚園では週4回、みんなでお昼ご飯を食べています。

そして、今年度からは、保護者のニーズを受け、週1回「お弁当給食」が食べられるようになりました。

友達や教師と同じメニューで「一緒に嬉しい！」、初めて食べるものや苦手なものも「少しだけ食べてみよう！」という気持ちになり、より一層お弁当の時間が楽しみになっています。



- ・こどもが楽しみにしていて、毎回完食していることが嬉しいです！
- ・小学校給食への関心につながると思います！



- ・こどもが新たな食材と出合えるのがいいところです！
- ・嫌いなものでも友達と一緒にだから、食べたり興味をもったりするようになりました！



「ありがとう！ 第一亀戸幼稚園」



〈第一回 修了生〉



沿革

- 昭和45年 東京都江東区立第一亀戸幼稚園として第一亀戸小学校内に設置
- 55年 開園10周年記念式典 園歌制定
- 58年 園舎落成記念式典
- 平成 2年 開園20周年記念式典
- 4年 江東区研究奨励
- 8年 新園舎落成記念式典
- 9年 学校週五日制推進園研究発表
- 12年 開園30周年記念式典
- 12・13年 江東区研究協力園
- 22年 開園40周年記念式典
- 22・23年 江東区研究協力園
- 令和 2年 開園50周年記念式典
- 6年 父母の会優良PTA文部科学大臣表彰受賞
- 7年 江東区立第一亀戸幼稚園開園

思い出深い取り組み 「父母の会と共に歩んだ幼稚園」

第一亀戸幼稚園は、小学校併設園という特色をいかし、園児と児童の交流、小学校教員による出前授業など様々な交流活動を行ってきました。

その交流と同じくらい中心にあったのが、父母の会の活動でした。運動会での手伝いや子育て支援活動、本部役員活動や修了対策部、写真部活動など、教育を推進するための土台部分をしっかりと支えてくださいました。また幼稚園と共催のもちつき、お楽しみ会、夏祭りは、幼児や保護者の方の笑顔があふれ、職員にとっても大変思い出深い取り組みです。



〈いちかめ大好き！〉



〈父母の会共催 もちつき〉